

（仮称）彦根総合運動公園第 1 種陸上競技場の建築基本設計（案）について

1 公園整備事業の経過

平成 27 年 12 月：公園整備基本設計に着手

平成 28 年 2 月～7 月：（仮称）彦根総合運動公園第 1 種陸上競技場建築検討懇話会の開催（計 3 回実施）

9 月：公園整備基本設計の取りまとめ

平成 29 年 3 月：公園整備実施設計に着手

：第 1 種陸上競技場建築基本設計に着手

2 第 1 種陸上競技場建築基本設計（案）

（1）第 1 種陸上競技場建築基本設計のコンセプト（別添パース図参照）

①コンパクトな競技場

- メインスタンドの観客席を 2 層構成とすることにより幅を縮小
- メインスタンドに架設する屋根の範囲を縮小

②歴史、景観に配慮した競技場

- 外壁は伝統的な技法である真壁造や下見板張り風のデザインを採用
- 外観は城下町の景観と調和した落ち着いた色調を採用
- 百間橋をモチーフにし、連続で櫓形状に構成する柱と梁を採用
- 屋根の先端付近に照明設備を設置（照明柱は設置しない。）
- 西側住宅地からの距離を離し、樹木を植栽して圧迫感を低減
- 屋内仕上材等に県産材等を活用

③周囲を自由に回遊できる競技場

- 2 階レベルに回遊できる歩道空間（スタジアムリング）を設置
- 4 カ所の屋外階段とスロープを設け、スタジアム内外のアクセスを向上

④環境負荷の縮減を図る競技場

- 風の流れを考慮した自然換気を採用
- 屋根の雨水を集水し、フィールドの芝生散水に活用
- 遮光壁やスピーカーの分散配置により近隣の住環境負荷（光漏れ、音漏れ）を低減

⑤安全で安心な競技場

- 地震発生時に倒壊しないよう建物の耐力（必要保有水平耐力）を 1.25 倍割増
- 災害時の緊急輸送機能や避難施設としての機能を確保するため自家発電装置を設置
- 発災時には雨水をトイレ洗浄水等に活用

（2）第 1 種陸上競技場の主な仕様

①施設の規模

- 整備面積：約 3.9 ha
- トラック：400 m × 9 レーン（全天候舗装）
- フィールド：106 m × 69 m（天然芝、サッカーやラグビー等多目的に利用可能）
- 収容人員：15,000 人以上、固定席：メインスタンドに 7,000 席程度

②スタジアムの主な構造

- 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 5 階建て（バックスタンドは 2 階建て）
- 最高の高さは 24 m 程度

- メインスタンドは2層式
- メインスタンドとバックスタンドの観覧席の全面に鋼板製の屋根を架設
- メインスタンドとバックスタンドにエレベーターを設置
- 北側に大型映像装置を設置

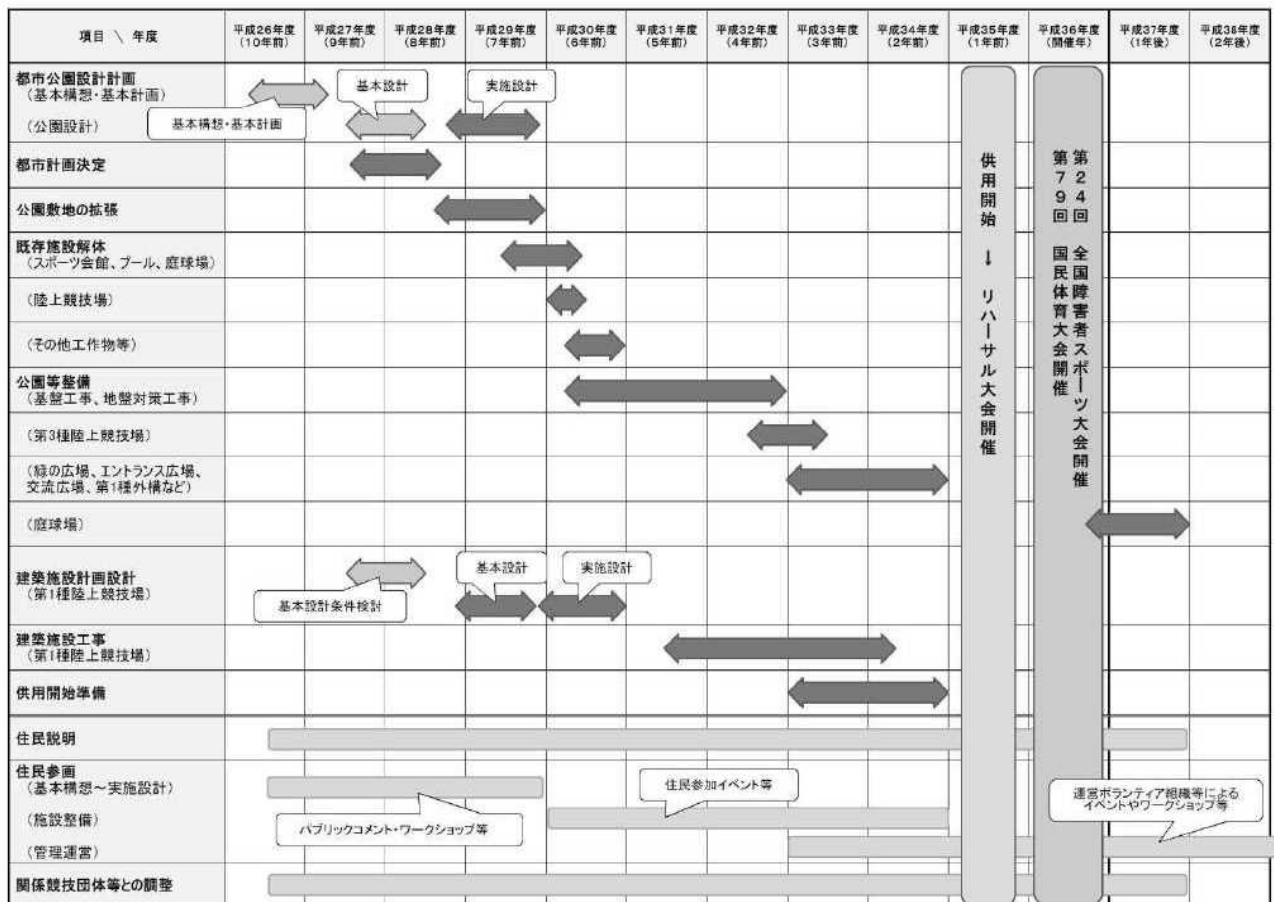
③諸室の配置

- 1 F：エントランスホール、更衣室、会議室、事務室、情報処理室、記者室、記者会見室、ドーピング検査室、器具庫、雨天走路、トレーニング室など
- 2 F：倉庫、売店、観覧席、コンコースなど
- 3 F：観覧席、倉庫、コンコースなど
- 4 F：貴賓室、観覧席、コンコースなど
- 5 F：放送室、写真判定室、指令室、大型映像装置操作室など

3 今後の主な予定

- 平成 29 年 10 月下旬：住民説明会等（解体工事およびスタジアムの検討状況）
：彦根総合運動場現有施設の解体工事に着手
- 12 月下旬：第 1 種陸上競技場建築基本設計の取りまとめ
- 平成 30 年 2 月下旬：公園整備実施設計の取りまとめ
- 3 月上旬：第 1 種陸上競技場建築実施設計に着手
- 平成 30 年度：公園整備工事に着手
：第 1 種陸上競技場建築実施設計の取りまとめ
- 平成 31 年度：第 1 種陸上競技場建設工事に着手

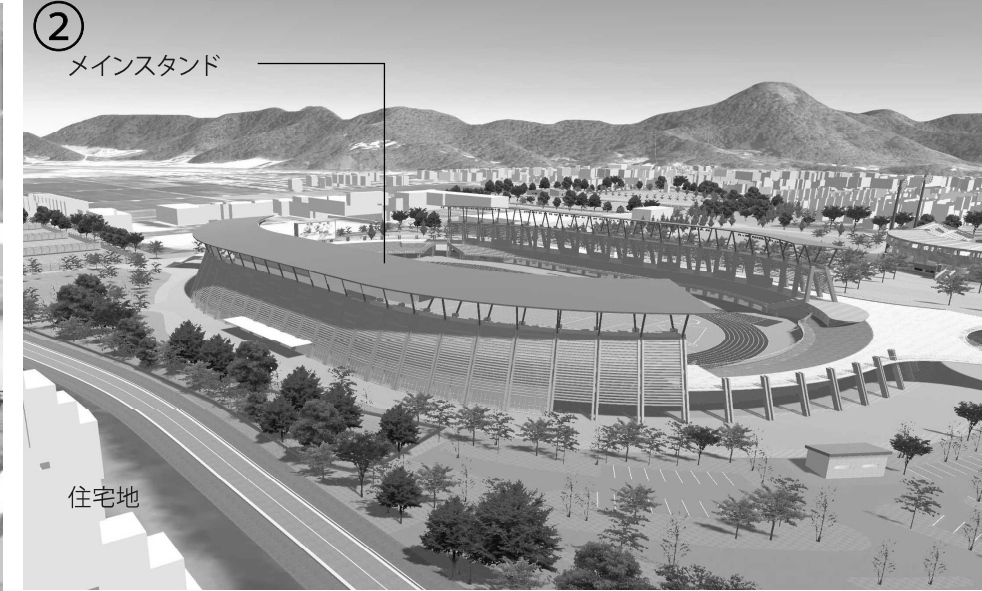
【公園整備スケジュール】



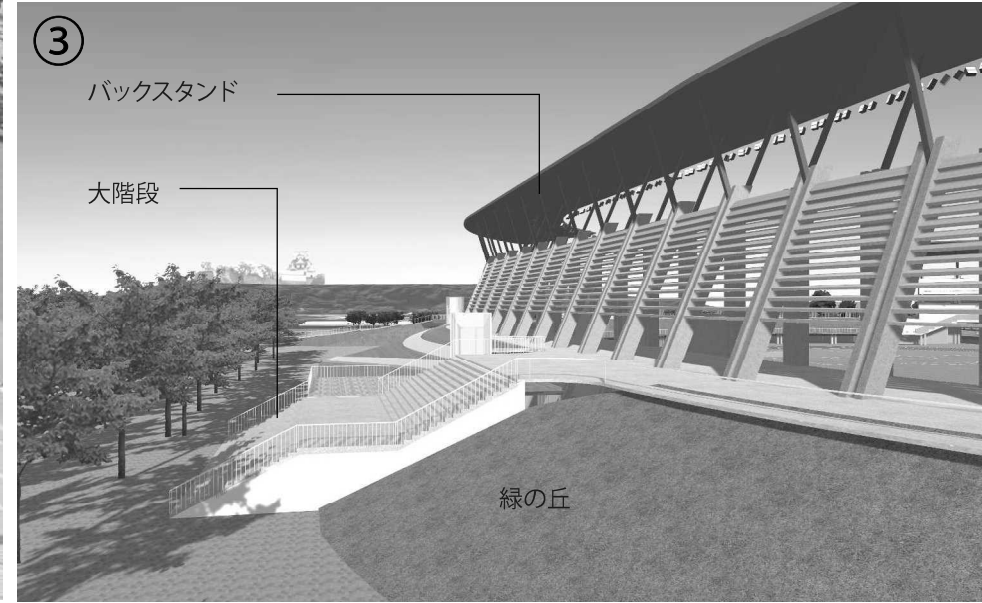
第 1 種陸上競技場建築基本設計パース図



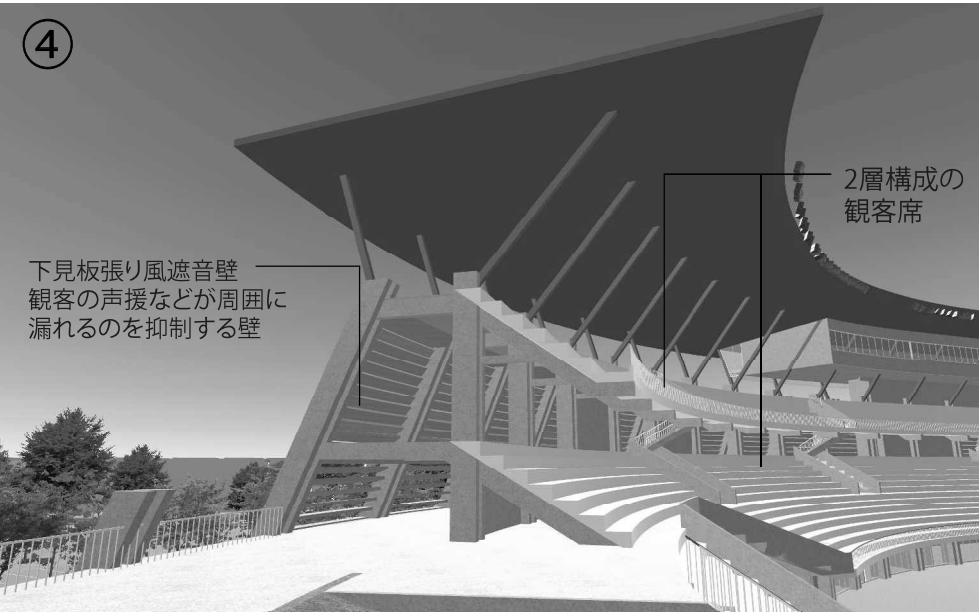
鳥瞰



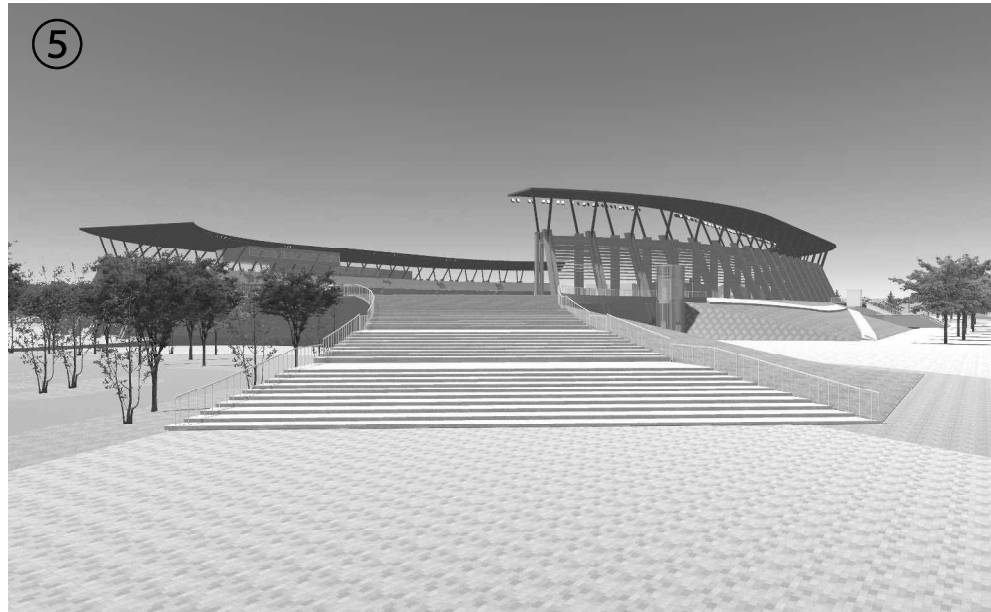
鳥瞰(西側の住宅地から):環境に配慮した建物構成



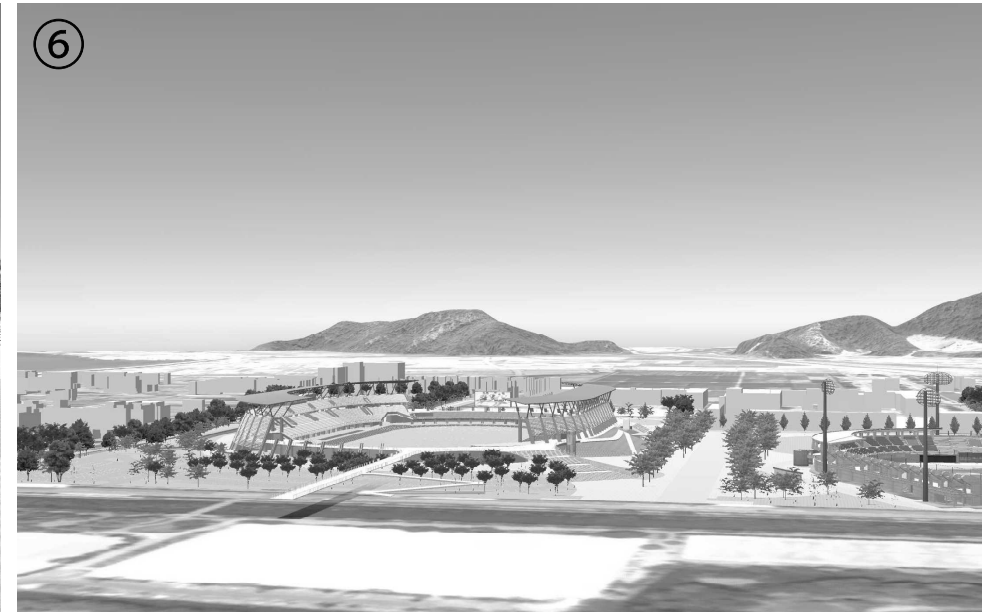
エントランス広場から:公園と第1種陸上競技場を繋ぐ「緑の丘」と「大階段」



南サイドスタンド側スタジアムリングから:檜(やぐら)形状の建物構成



公園の主出入口から:スタジアムリングに上がる大階段



彦根城天守から